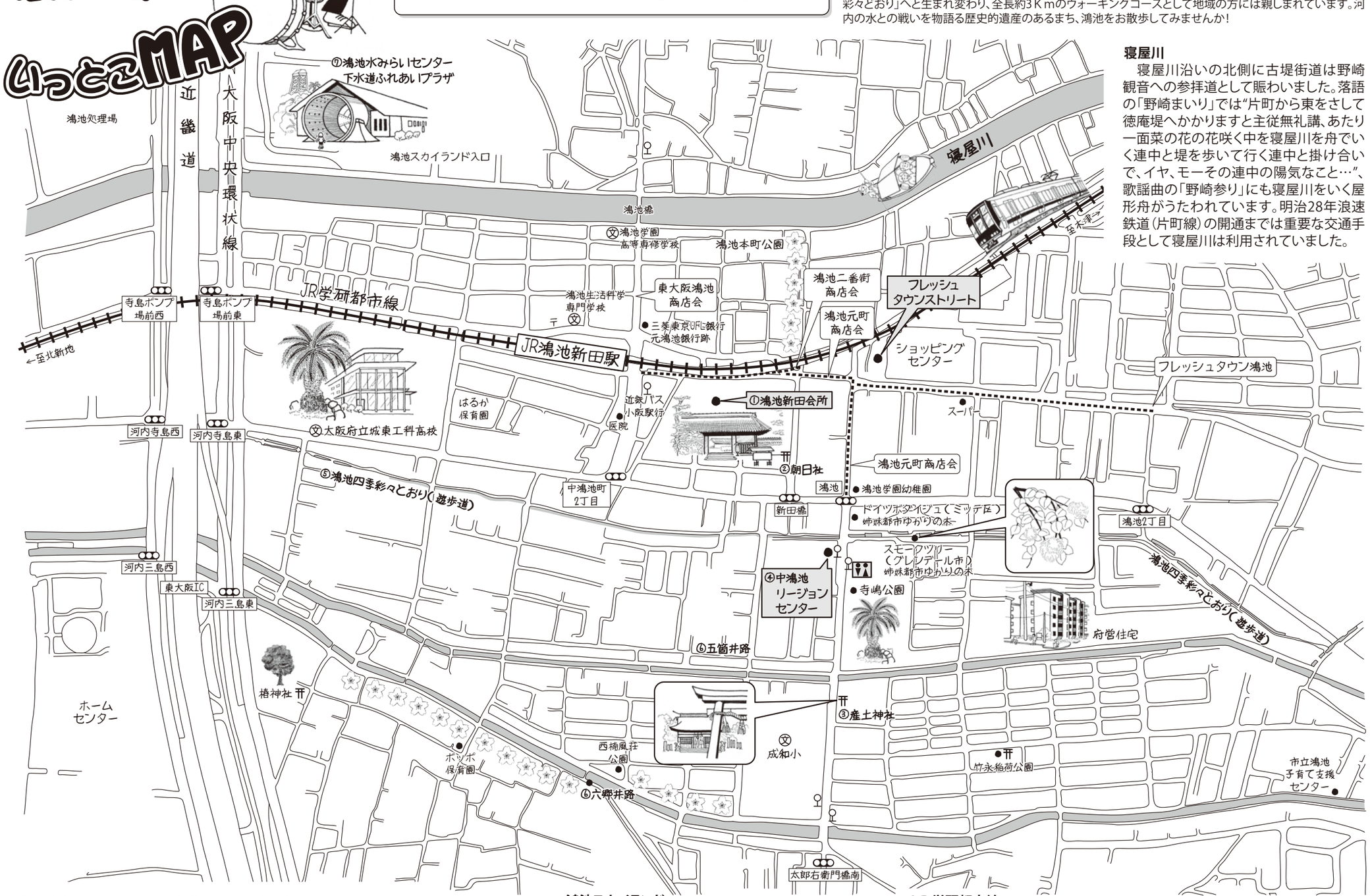
まちにとびだせ!

東大阪

JAZZ のまち鴻池散歩
鴻池　新田会所周辺

かつての水害に苦しむ大和川流域は、大規模な治水工事が行われ、新しい川床は田畑にうまれかわり、中でも「河内木綿とて何国（いずく）にても重宝する也」と記されるほど河内木綿は当時の基幹産業の一つでした。豪商鴻池家によって建てられた鴻池新田会所は昭和51年に国の史跡、昭和55年には5棟の建物が重要文化財の指定を受け、今では一般公開されているだけではなく、お茶会や展示会など貸室も行われ、地域の人の交流の場でもあります。近年では「鴻池の街を、JAZZをはじめとする音楽文化の発進拠点」をめざして、鴻池新田会所や街角でJAZZ演奏が行われるイベントが開催されています。

昔、鴻池新田会所へ舟で米を運んだ「鴻池井路」という水路は、今ではせせらぎのある散歩道「鴻池四季彩々どおり」へと生まれ変わり、全長約3Ｋｍのウォーキングコースとして地域の方には親しまれています。河内の水との戦いを物語る歴史的遺産のあるまち、鴻池をお散歩してみませんか！



寝屋川

寝屋川沿いの北側に古堤街道は野崎観音への参拝道として賑わいました。落語の「野崎まいり」では“片町から東をさして徳庵堤へかかりますと主従無礼講、あたり一面菜の花の花咲く中を寝屋川を舟でいく連中と堤を歩いて行く連中と掛け合いで、イヤ、モーその連中の陽気なこと…”、歌謡曲の「野崎参り」にも寝屋川をいく屋形舟がうたわれています。明治28年浪速鉄道（片町線）の開通までは重要な交通手段として寝屋川は利用されていました。

鴻池

鴻池の地は、1704年（宝永元年）大和川付け替え工事までは、「新開池（しんがいけ）」または「ないすけ淵」と呼ばれていた広大な池でした。川付け替え後、池床は新しい田畑「新田」として開発されました。新開池の一部は戦国武将山中鹿之助の子孫で大阪の豪商鴻池善右衛門宗利によって120haの土地が開発され「鴻池新田」と名づけなれました。

①鴻池新田会所

「鴻池新田会所」の年貢徴収と土地管理を行うための事務所として1705年に建てられました。会所は1976年に国の史跡、1980年に本屋・屋敷蔵・米蔵・文書蔵・道具蔵が重要文化財に指定されています。「会所」は河内平野の水害の歴史と大阪町人の底力を物語る貴重な文化財です。

開館時間／10：00～16：00（15：30までに入場）
休館日／月曜日・祝日の翌日（土日を除く）
ＴＥＬ／06－6745－6409

②朝日社

鴻池新田会所内の東南にあり、1706年（宝永3年）創建。祭神は天照大神でのちに開発者鴻池善右衛門宗利も合祀しています。当初は産土神社といわれていました。現在、天照大神は他村の神社と合祀され産土神社に移り、鴻池家個人の神社になっています。

③産土神社

鴻池新田の産土神社と新庄・三島の各神社と1907年（明治40年）会所内の神社に合祀されていましたが、昭和10年に現在の場所に社殿を造営して祀られています。

④中鴻池リージョンセンター　グリーンパル

行政サービスセンターと市民プラザを併せもつ施設です。市民プラザはサークルなどで利用できます。企画運営委員会が主催する講座、音楽会などに気軽に参加することができます。

⑤鴻池四季彩々どおり

農業用水としての役割を持っていた鴻池水路のうち、八尾枚方線から中央環状線までの約3Ｋｍを市民が気軽に安心して楽しめる場として平成16年に整備されました。」色々な草花が植えられ、水と親しめる水辺空間など楽しい場所がいっぱいです。

⑥五箇井路・六郷井路

新田開発まで残っていた新開池は、泥沼に近い状態でした。池の中に各村に水を送る水路や舟の運行のため、井路が掘られていました。新田開発が行われた後も、この水路は近郷の村の便宜のために残されていました。

⑦鴻池水みらいセンター下水道ふれあいプラザ

寝屋川9市の汚れた水は下水道を通して鴻池処理場に集め、科学的・衛生的に処理してきれいな水によみがえらせて寝屋川へ放流しています。またプラザでは下水道のことが分かりやすく説明され、実物の下水管にも触れることもできます。

見学可（見学時間約2時間）※要事前予約
開館時間／平日9：00～17：00
休館日／土曜日、日曜日、祝日及び年末年始
（1月1日から3日、12月29日から31日）
ＴＥＬ／06－6911－9595

鴻池スカイランド

鴻池処理場の屋上を利用した芝生広場。バラ園、ゲートボール場、運動広場などがあり、生駒山を眺めながらのんびりできます。エレベータあり。

開館時間／9：00～17：00
休館日／火曜日（休日の場　合は翌日）及び年末年始

ＪＲ学研都市線

浪速鉄道として1895年（明治28年）に片町駅～四条畷駅間を開業、間もなく関西鉄道に合併、明治40年に国有化され国鉄桜宮線となります。鴻池新田駅は高架になる前は鴻池新田会所の北門前に明治45年、鴻池家の寄贈によって設置されました。片町線と呼ばれるようになったのは大正8年からです。1988年に学研都市線の愛称が設定されました。

明治43年から鴻池新田と称していた地名は鴻池と変わりましたが、江戸時代によばれていた鴻池新田の名称は駅名に残されています。